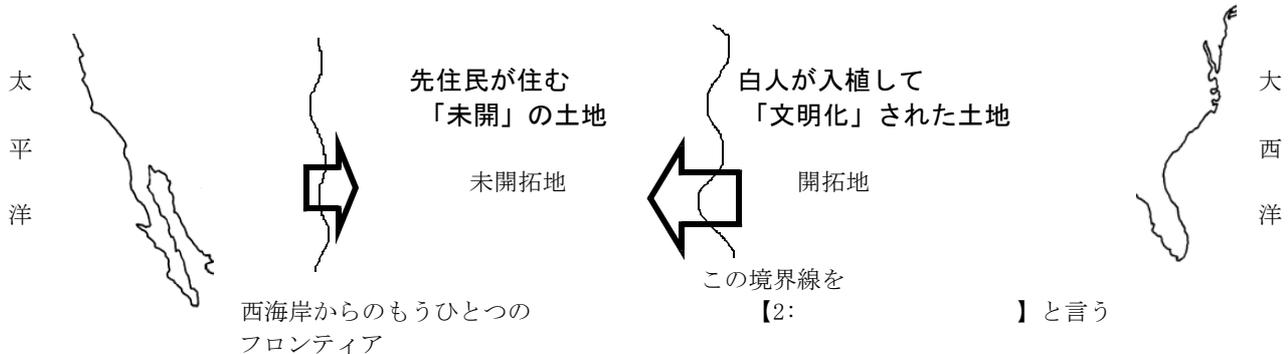
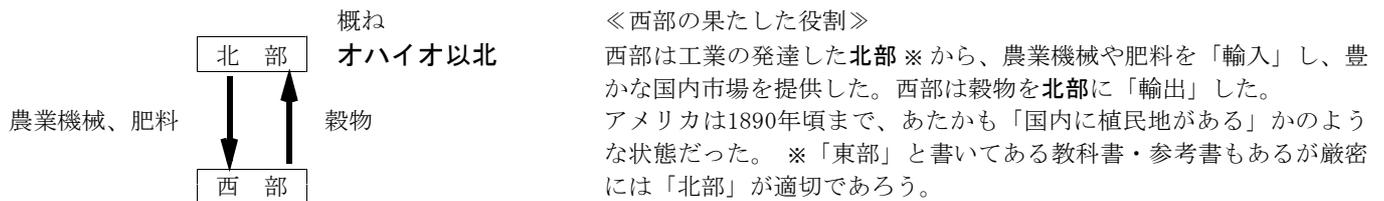


1848年は、アメリカが「大陸国家」になった年、ゴールドラッシュが始まった年！

- 1) 西部とは？ フロンティアとは？ (西武ではない。それは球団も持つわが国の私鉄資本の名。西武蔵の略)  
 独立13州からみて西にあったので西部と呼ばれた。  
 西部開拓は、北部やヨーロッパからの【1: 】によって進められた。  
 西部開拓は、**西漸運動** (せいぜんうんどう) とも言う。  
 →アメリカのテレビドラマ『大草原の小さな家』(ローラ=インガルス=ワイルダー 原作) は1870年代から1880年代の開拓地が舞台で当時の開拓農民の暮らしと価値観が分かる。先住民も登場する。わが国でも放映された。



新規開拓地は人口増で准州として自治政府を設け、州に昇格という手順で合衆国に加わっていった。  
**フロンティアとは？** 開拓地と未開拓地の境界線または境界地帯、または未開拓地そのものを指す。フロンティアでの数多くの不確かなサクセスストーリーは、海外の移住希望者を魅了した。これこそ今日なお広く使われる**アメリカン・ドリーム**の原型である。**実力主義と未知、未開の地に挑む自主独立の開拓者精神をフロンティア=スピリッツ**と言ひ、アメリカ合衆国国民は現在でもその継承者を自認している。



- 2) 大西洋側からフロンティアが西に進む一方、太平洋側からも、もうひとつのフロンティアが東に進みはじめた。そのきっかけは、1848年にカリフォルニアで始まった【3: 】である。1848年の金鉱脈発見により、1849年には全アメリカ、全世界から一擧千金を夢見る男たちがカリフォルニアにやってきた。彼らを「フォーティーナイナー」※と呼ぶ。1848年の二月革命以降、ヨーロッパで大きな革命が起きなくなったのは大勢の最もハングリーな人々がカリフォルニアに金鉱掘りに行ってしまったからに違いないと言う joke もある。日本人ではジョン万次郎が唯一のゴールドラッシュ参加者であろう。

※ 「いとしのクレメンタイン」というバラードには何通りもの歌詞があるが、1946年のジョン=フォード監督のアメリカ映画『荒野の決闘』に使われた英詞を読んで見よう。 dwelt=lived (「雪山賛歌」はその替え歌)

In a cavern, in a canyon,  
 Excavating for a mine,  
 Dwelt a miner, forty-niner,  
 And his daughter Clementine

1860年前後から、ネヴァダ・コロラドなどでも金・銀の採掘が始まった。  
 通信・交通網も整備され、1869年には最初の大横断鉄道が開通した。

2つのフロンティアが会って消滅するのは、南北戦争 (No.140) 後の、およそ1890年ごろである。

- 3) 1853年、54年のアメリカ合衆国海軍の【4: 】艦隊の浦賀来航 (大統領はフィルモア) はゴールドラッシュと関係がある。アメリカ・イギリス戦争 1812-14 を機に**産業革命**を準備中のアメリカは、太平洋で**捕鯨**をして機械用潤滑油 (工業に不可欠) を得ていた。西海岸を出帆して日本近海まで航海する蒸気船の燃料の**石炭**と**飲料水**の補給が必要だった。ゴールドラッシュで西海岸の人口が増え、日本との国交確立が急がれた。イギリスもわが国に自由貿易を強いてくるはずであるが、彼らは、インド大反乱などの対応に追われ、日本にまで手が回らなかった。

「涙の踏みわけ道」を歩まされた先住民

- 1) 西部開拓 (西漸運動) の進展によって、先住民のおかれている状況は一層悲惨なものとなった。もともと彼らの多くはアパラチア山脈の豊かな森林地帯の狩猟民であった。  
 1830年、ジャクソン大統領は、「【5: 】」を制定し、ミシシッピ川以東の先住民をミシシッピ川以西の**不毛な「居留地」に強制移住させた**。移住の途上 (「涙の踏みわけ道」) でも飢餓と病気で多数の死者を出した。  
 「居留地」では「文明化」の名のもと英語やヨーロッパ文化を学び、キリスト教を受容させられた。  
 西部開拓は、「インディアン」にとっては迫害そのものであった！今日のアメリカでは、彼ら先住民の子孫を【6: 】と呼ぶが、1960年代にアメリカの政府機関が使い始めた用語でインディアン側から出たものでは

